

2018年度 事業報告書

場所：佐久グランドホテル 会議室にて

令和元年（2019年）6月5日

平成30年度 事業活動報告（一般社団法人佐久産業支援センター）

1. 任意団体からの移行及び一般社団設立と理事会経過

平成30年3月30日（金曜日）

佐久市、佐久商工会議所、臼田町商工会、佐久市望月商工会、浅科商工会、佐久市工場協会により、任意団体佐久産業支援センターを設立、設置。

平成30年5月31日（木曜日）

任意団体佐久産業支援センターの解散決議。清算手続き開始。

平成30年6月1日（金曜日）

一般社団法人佐久産業支援センター設立。設立時社員総会、第一回理事会を開催。

平成30年6月20日（水曜日）

茂原監査役による清算監査実施。設立団体各位への清算報告。

平成30年6月29日（金曜日）

一般社団法人佐久産業支援センター設立記念式典及び名刺交換会、第二回理事会（書面表決）の開催。

平成30年8月24日（金曜日）

第三回理事会（書面表決）の開催。

平成30年10月30日（火曜日）

臼田監事、茂原監事による、平成30年度上期（6月～9月）の中間監査実施。

平成30年10月31日（水曜日）

第四回理事会（書面表決）の開催。

平成30年12月27日（木曜日）

第五回理事会の開催。

平成30年3月28日（木曜日）

第六回理事会（書面表決）の開催。

2. 主な実施事業活動・会合

参考：会員数 73（設立時会員 6、特別会員 12、一般会員 41、支援会員 14）

- (1) 6月29日 設立時記念式典及び名刺交換交流会開催・・・・・・・・・・ 6p
- (2) 6月8日～
 - 8月24日 ミドル管理者研修会実施（6/8・7/19・8/24の3日間）・・ 7p
- (3) 9月6日 長野県医療ヘルスケア産業展示商談会共催参加・・・・・・・・ 7p
- (4) 9月20日 プレメディカルケア開発支援プロジェクト第1回実施・・・・ 8p
- 10月25日 プレメディカルケア開発支援プロジェクト第2回実施・・・・ 9p
- 12月 6日 ” 第3回実施・・・・10p
- 1月24日 ” 第4回実施・・11～12p
- 2月22日 ” 第5回実施・・13～14p
- (5) 10月15日 長野県工業技術総合センター見学会実施・・・・・・・・ 15p
- (6) 2月 8日 日本医療機器テクノロジー協会との情報交換会実施・・・・ 16p
- (7) 3月 6日 会員企業の工場見学会（第一回）実施・・・・・・・・ 16～17p
- (8) 3月18日～
 - 20日 Medtec Japan 出展企業の支援・・・・・・・・・・ 17p

3. 活動実績の詳細報告

- (1) 起業・事業化支援 6件（長野県創業支援センター入居等）
- (2) 知財支援 16件（調査・商標・申請）
- (3) セミナー講演会開催 18件（ミドル管理者講座、IoT講座他）
- (4) 補助金支援 26件（もの補助、経営力向上、IT補助他）
- (5) ホームページ開設 20件（20社対応）
- (6) 新商品開発支援 7件（産産・産学連携・商品機能、プレメディカル開発支援等）
- (7) 販路拡大支援 9件（海外展示会、医療マッチング等）
- (8) 連携・ネットワーク構築 5件（長野県工業技術相談会 6社7名）

(1) 佐久産業支援センター設立記念式典及び名刺交換交流会開催

日時：2018年6月29日（金曜日） 午後3時30分～午後7時

場所：佐久グランドホテルにて

佐久市内の各企業中心に、佐久市・商工会議所・各商工・工場協会の参加を頂き、総勢100名前後で盛大に記念式典を行いました。

開会宣言の後、榎山代表理事の挨拶、佐久市の柳田市長、来賓のご挨拶に続き、稲生佐久産業支援センター長から、当センターの取組について説明をしました。

その後基調講演会に移り、野村證券の和田木先生から「2018年の世界経済と日本経済の動向」とテーマに、記念講演を頂きました。



基調講演会終了後、第二部として名刺交換交流会を別室にて開催致しました。

たくさんの方のご参加を頂き、講師の先生や設立諸団体の関係者、企業担当者など、飲み物を交えながらの意見交換及び名刺交換の場となり、短い時間でしたが、時を過ぎるのがとても早かったとの意見を頂きました。



今回の「設立記念式典及び名刺交換交流会」の最後に、設立諸団体の代表各位（理事就任）にご参列頂き、記念写真を右記の様に撮影致しました。



(2) ミドル管理者研修会実施

日時：2018年6月8日、7月19日、8月24日の3回（AM10時～17時）

場所：佐久商工会議所 会館3F 大会議室

ミドル管理者の養成を目的に、公益財団法人長野県テクノ財産、浅間テクノポリス地域センターと共同で、3回に分けて実施致しました。

参加者は40名弱で、東信地域の各企業より参加頂きました。

6月8日の第一回は「学習し合う関係の構築」7月19日の第二回は「楽しい改革、改善の取組」、8月24日は「リーダーとしての人間力向上」をテーマに「主体的に改革に取り組む管理職へ」がメインテーマでした。

講師は㈱総合教育研究所の石橋正利先生をお迎えし、熱意の籠った指導・お話をされました。

参加者からも好評で、次年度も継続して実施して行く必要が感じました。



(3) 長野県医療ヘルスケア産業展示商談会共催参加

日時：2018年9月6日（木曜日）

場所：東京都文京区本郷3-39-15

（日本医療機器協会）

本郷地区の400社とのビジネス商談会ですが、長野県内企業中心に出店・展示（佐久地域からは、協和さん）し、医療機器業界とのビジネスマッチングの機会が得られたと評価頂きました。



(4) プレメディカルケア産業開発支援プロジェクト

第1回＝日時:2018年9月20日(木曜日) 13:30～16:30

場所:佐久大学 4号館 4103教室

当日は、主催者含め40名弱の企業担当者参加の基に、講師の先生を中心として、プレメディカルデザインに関するプレゼン及びパネルディスカッションが行われました。

参加者からは、事前に頂いたアンケートも含め質問があり、講師の先生はじめパネリストとの活発な意見交換の場となりました。



意見交換及びパネルディスカッションの後、出席者の会員企業さんと講師を交えて、名刺交換交流会を開催しました。

屈託のない意見を、飲み物を交えて意見交流のできる貴重な時間となりました。



第一回会合の最後に、講師・パネリスト、主催者合同での記念撮影を行いました。

次回の第2回目会合は、10月25日(木曜日)開催に、後日決まりました。



第2回＝日時:2018年10月25日 14:00～17:00

場所:佐久大学4号館 4103教室

10月25日に、プレメディカルケア産業支援プロジェクト(第2回)デザイン開発ワークショップを開催しました。企業(15名)、医療・介護機関(5名)、学術機関(3名)から、数多くの方に参加いただき、講師の先生、主催者を含め、計34名での開催となりました。

まず、浅間総合病院、恵仁会くろさわ病院、佐久総合病院の医療機関様から、ニーズ・産学医連携の課題などをお話いただき、その後、ウインテック(株)、(株)協和、(株)ナルコム、(株)西軽精機、マイクロコントロールシステムズ(株)、マイクロストーン(株)、6社の企業様から、シーズ・技術のご紹介をいただきました。



次に、佐藤 徹 様(日本大学芸術学部デザイン学科教授)、中林 鉄太郎 様(東京造形大学デザイン学科教授)、柴田 映司 様(TEKO Design代表)、長昌 規恭 様(Nagayoshi Design主宰)、鍋田 知宏 様(日本医療福祉デザイン協会代表)5人の先生によるご指導で、医療・介護、学校、企業の混成5チームに分かれて、「プレメディカルの視点から佐久の未来を語る」をテーマにワークショップを開催しました。

短い時間でしたが、幅広い視点から熱心に議論いただき、最後に各チームから結果を発表戴きました。



アンケートでは、大いに役に立った…68%、まあ役に立った…32%、「楽しかった」「異なる業種、立場の人と話ができた」「いろいろな考え方があり、勉強になりました。情報を共有することの大切さを改めて感じます」などのコメントを

いただきました。また、「メーカーの商品を現場が選ぶのではなく、現場のニーズをメーカーが理解することがビジネスチャンスになるのではないか」といった貴重なご意見もいただきました。

ワークショップの結果、みなさまからいただいたご意見を、今後のワークショップ等の活動やテーマに生かしてゆきます。

第3回＝日時:2018年12月6日 14:00～19:00

場所:佐久平プラザ21

12月6日(木)佐久平プラザ21にてプレメディカルケア産業支援プロジェクト(第3回)講演会・デザイン開発ワークショップを開催しました。企業、医療・介護機関、学術機関から多くの方に参加いただき、講師の先生、主催者を含め、計38名での開催となりました。

最初に、桐村 里紗様、一平様ご夫妻(tenrai 株式会社)から、「ヘルスケアはヘルスシェアへ」と題して講演いただきました。口腔ケアは生活習慣病の予防改善としてのプレメディカルに必須であること、無関心のスイッチを入れることが重要であること、ネットワーク形成によるコミュニティのエンパワメントが効果的であることなどをお話いただき、「予防医療はライフスタイルのデザインである」と締めくくられました。

次に、中林 鉄太郎様(東京造形大学デザイン学科教授)に加わっていただき、トークライブ「ヘルスケア環境とデザインの現場から、これからの社会に必要なこと」を行いました。桐村ご夫妻のお話を踏まえ、健康をクリエイトすることをどうやって意識付けするか？ 栄養士と市民のギャップをどう埋めるか？ 体験する「場づくり」とそのデザインなどについてお話いただきました。



次に、佐藤 直樹様(株式会社シズン)から、「医療機器の製造現場から医療の現場、ものづくりの現場の旬」と題して、企業シーズのご紹介をいただきました。バックボードツリーなどの商材を通し、顧客ニーズをどのように探り出して形にしてゆくか、お話いただきました。

最後に、参加者が5つのチームに分かれ、「佐久の健康長寿に必要なこと・もの」をテーマにワークショップを開催しました。ものづくり、サービス、デザイン、建築、医療、介護、大学、自治体など、様々な方々の混成チームで熱心に討議いただき、結果を発表いただきました。



終了後のアンケートでは、いくつか深掘すべき課題・テーマのアイデアをいただき、「参加者がつながるきっかけが産まれればよい」「新しい取り組みやサービスにつながればよい」「プレメディカルについてプロジェクトにおける定義を再確認すべきでは」など、貴重なご意見をいただきました。今後のワークショップ等の活動やテーマに生かしてゆき

ます

第4回＝日時:2019年1月24日 14:00～17:00

場所:佐久大学4号館 4103教室

1月24日(木)佐久大学にてプレメディカルケア産業支援プロジェクト(第4回)講演会・デザイン開発ワークショップを開催しました。企業、大学、医療・介護、支援機関、自治体などから多くの方に参加いただき、講師の先生、主催者を含め、計47名での開催となりました。

最初に、信州大学繊維学部特任教授の橋本先生から、「人に優しい”着る”ロボット curara®の歩行支援技術とその開発体制」と題して講演いただきました。開発段階ごとに、連携企業の協力を受けながら、構造・機能をどのように進化させてきたか、分かりやすくご説明いただき、また、障害を持つ方の歩行訓練にいかにか効果的であるか、ビデオなどでお示しいただきました。



続いて、連携企業のひとつであるナビオ(株)代表取締役 荻原 明雄様から、参画の経緯と苦労された点などについてお話をしました。

次に、佐久大学看護学部・大学院教授の坂江先生から「足から始める健康づくり 佐久大学の取組み」と題して、足の健康の重要性や、佐久大学の”足育”の取組みについてご説明いただき、測定機器の開発経緯と課題についてもお話をしました。



さらに、パラマウントベッド(株)の水上課長様から、「地方地域のこれからの医療とビジネスへの取組み」と題して、睡眠中のバイタルデータを取得する眠り SCAN のご紹介や、佐久地域が地域包括ケアプログラムに適していることなどをお話をしました。

最後に、参加者が5つのチームに分かれ、「健康長寿社会に向けた産学医連携に必要なこと」をテーマに、恒例のワークショップを開催しました。ものづくり、サービス、デザイン、建築、医療、介護、大学、自治体など、様々な方々の混成チームで熱心に討議頂き、結果を発表して頂きました。



終了後のアンケートでは、これまで同様「他業種・多職種の方とお話でき、情報交換できた」というご意見を多数いただくとともに、「プレメディカルで佐久の可能性が十分ある」「地域を包括的に見守るしくみ」「地域としての目標を決め、地域ぐるみでビジネスに向かう」など、貴重なご意見を頂きました。



今後のワークショップ等の活動やテーマに生かしてゆきます

第5回＝日時:2019年2月22日 14:00～17:00

場所:佐久大学4号館 4103教室

2月22日(金)佐久大学にてプレメディカルケア産業支援プロジェクト(第5回)講演会・デザイン開発ワークショップを開催しました。企業、大学、医療・介護、支援機関、自治体などから多くの方に参加いただき、講師の先生、主催者を含め、計30名での開催となりました。

最初に、「ナノシード(除菌・消臭装置)のご紹介」と題して、(株)ナノシードの長谷川様より、製品の開発経緯と特長のご紹介をいただきました。続いて、東京造形大学の中林先生から、製品の持つポテンシャルと市場戦略について、ヘルスケア・医療機器開発におけるトレンドのご紹介を交えて、アドバイスいただきました。

次に、日本大学の佐藤先生より、「地域資源を活用したデザインの実例」と題して、高岡市の鋳物メーカーによる民生市場への展開例をご紹介いただきました。

さらに、TEKO デザインの柴田代表から、「健康セルフチェック機器のデザイン紹介」と題して、開発の経緯や機能デザインについてご紹介いただくとともに、「製作には佐久地域の企業に携わってほしい」との



コメントをいただきました。

(株)ナノシード 長谷川様

東京造形大学 中林教授

日本大学 佐藤教授

TEKO デザイン 柴田代表

続いて、主催者側から、長野県佐久地域振興局、佐久産業支援センター、日本医療福祉デザイン協会より、来年度の活動方針として個々のプロジェクトを動かしてゆくこと、その際のデザイナーを活用するポイントについて説明いただきました。

最後に、参加者が4つのチームに分かれ、「プレメディカルの街を目指してやりたいこと」をテーマに、恒例のワークショップを開催しました。ものづくり、サービス、デザイン、医療、介護、大学、自治体など、様々な方々の混成チームで熱心に討議いただき、発表の時間は取れませんでした。資料を参で共有しました。



また、参加いただいた(株)小林真人建築アトリエの小林様より、講演会・ワークショップのご感想とアドバイスをいただきました。

終了後のアンケートでは、「いつも新しいことを知ることができ、考えが広がる」「いろいろな方と意見交換できるには良い」という声や、「次年度以降の方針やプロジェクトの方向性は確認・共感できた」という声をいただき、いくつかのプロジェクト・テーマのご提案をいただきました。来年度の活動に生かしてまいります。



(5) 長野県工業技術総合センター見学会実施

日時：2018年10月15日（火曜日）

第一部：午後1時30分～4時 第二部：個別相談会

場所：長野市若里1-18-1 長野県工業技術総合センター内



4階 視聴覚室にて

当日、企業関係者は7名、主催者含めて12名で開催しました。冒頭、稲生センター長の開会の挨拶、北沢長野県工業技術総合センター材料技術部門長からご挨拶を頂き、石坂主任研究員中心に、見学・交流・相談会がスタートしました。

まず、工業技術総合センター・材料技術部門の概要説明を頂き、必要資料散見の上、試験研究設備の見学に入りました。

試験研究設備の見学では、幾つかの工業技術総合センター内の先進設備を見学させて頂き、企業参加者からは活発な質問があり、石坂主任研究員・北沢部門長から、明快なご回答を頂きました。併せて、見学会での終わりに、材料技術部門で、設備使用料や、依頼試験手数料について、説明を頂きました。



試験研究設備見学風景

今回の見学・交流・技術相談会の第二部には、参加企業一社が個別相談をされました。今回の見学・交流・相談会では、参加企業の各社からは「非常に参考になった」など、好意的意見が多く、次回の松本・岡谷地域の見学・交流・相談会の弾みになりました。

(6) 日本医療機器テクノロジー協会との情報交換会実施

2019年2月8日(金曜日)に信州大学オープンベンチャー・イノベーションセンター会議室で、日本医療機器テクノロジー協会(MTjapan)会員企業8社に対して、佐久市内企業技術シーズ紹介を実施致しました。

参加企業は、オリンパス(株)、(株)カナタ、(株)高研、(株)ジェイ・エム・エス、住友ベークライト(株)、(株)塚田メディカル・リサーチ、ニプロ(株)、(株)メディコン8社と、浅間地域テクノポリスセンター様3名の同席を頂きました。

佐久地域のコア技術の紹介と日本医療機器テクノロジー協会とネットワークを築き、今後の必要な機器開発に向けての最新情報の収集と、地域企業との課題解決に向けて、支援事業の加速を図っていただける良い機会でした。

当センターが現在実施していますプレメディカル創出事業にも繋がる部分があり、日本テクノロジー協会会員様と緊密な情報交換ができました。



(7) 会員企業の工場見学会(第一回)実施

2019年3月6日(水曜日)に、株式会社高見沢サイバネティックス様、吉田工業(株)様の御好意で、第1回工場見学会を実施致しました。



(株)高見沢サイバネティックス様見学

7社・団体の13名の参加の下、3月6日に、佐久市内の当センター会員企業の工場見学会を実施致しました。午前中は、アッセンブリメーカーの高見沢サイバネティックス様、午後は加工・部品メーカーの吉田工業(株)様を見学しました。

見学時間は、説明を含めて1時間半程度でしたが、見学企業担当者の詳細な案内と説明で、異業種交流が深まったとのご意見も頂きました。

見学会終了後のアンケートでは、このような機会を引き続き設けて欲しいとか、参加した企業各社も、自社の参考にしたい管理方法などがあったなどのご意見を頂きました。



吉田工業(株)様工場見学

意見交換でも、見学先企業様への活発な質問や企業様からご回答を頂くなど、有意義な時間を持てました。

今回の「会員企業工場見学会」は比較的少数での開催でしたが、次年度もこのような機会を設けて、佐久地域企業のネットワーク作りをしていきたいと考えます。



(8) Medtec Japan 出展企業の支援

Medtec Japanへの長野県ブースは、第5ホールの入り口にあり、通路の照明が効果を示したのか、出展企業へ訪問される来場者数が他のブースより多く感じました。長野県の精密加工技術の知名度もあるかと思いますが、ブース彩色のデザイン・設置場所も来場者の招集には有効であり、出展企業の吉田工業も多くの企業と情報交換をされていました。出展社共通に言える事です、事業紹介、加工部品の繊細さ、技術難易度等に注力された説明が多く聞かれ、『自社の技術を生かして、お客様にどのような価値へ繋がるのか』、聞き出し結びつける質問と説明の必要性を痛切に感じました。今後も、このような機会を有効に利用して欲しいと思います。



